

関東農政局長賞
受賞者 **平群ツーリズム協議会**
(千葉県南房総市)

【「子どもの声が響く地域」を目指して】

1 取組の動機と背景

平群ツーリズム協議会が活動する南房総市平久里地区は、房総半島の南端に位置し、他の中山間地同様、人口減少・高齢化による遊休農地や空き家が増加している状況にあり、このままでは地域の担い手が不足し、農業はもとより、歴史文化の継承や里山保全への危機感が高まっていた。

そのような地域において、平成16年から地域の茅葺き古民家「ろくすけ」を活用し、自然・田舎暮らし体験を実施する「NPO法人千葉自然学校」が地域交流しながら活動していたが、地域資源の更なる活用を進める上では、もっと多くの地域の力・協力が欲しいと考えていた。一方、地域住民も、この法人と伝統行事などの地域活動を一緒に取り組む中で地域に賑わいを呼んでいることを実感していた。このような関係において、地域の存続に危機感を感じていた区長及びそれに賛同する地域住民とNPO法人が中心となり、「平群ツーリズム協議会」を平成25年に設立した。地域の茅葺き古民家「ろくすけ」を活動の拠点とし、グリーン・ツーリズムを通じて都市住民に平久里ファンを増やし、「子どもの声が響く地域」を目指し、地域活性化の活動を行っている。

2 主なむらづくりの内容

- 活動拠点となる古民家「ろくすけ」は、飲食店営業や味噌加工等の許可を取得しており、ここで行われる加工体験等は多くの都市住民を受け入れ、また、平成30年には農泊施設としてもオープンし、地域の宿泊・滞在施設となることで、郷土料理体験などのプログラムも充実、交流人口の増加など地域の振興に大きく寄与。
- 都市部に在住するNPO法人千葉自然学校OBらによる応援隊「ろくすけの会」が結成され、地域農家の指導のもと耕作放棄地1,400㎡を活用し、そら豆、枝豆、大豆を栽培。収穫イベントや味噌づくり体験に活用。
- 令和元年の交流人口は1,700名を数え、宿泊キャンプなどに参加する子どもたちへ野菜の差し入れ、動植物の生息状況など地域住民の協力も増加。
- 令和元年は、「ろくすけ」に農泊した県内の農業高校生が台風15号、19号により被災した平久里地域の農業者のハウス撤去作業を支援し、地域に貢献。



活動拠点の古民家「ろくすけ」



収穫した大豆でみそづくり



ホームステイキャンプ



台風15号後のビニールハウス撤去